



宇久中だより2018

佐世保市立宇久中学校 学校通信

(平成31年2月1号)

文責 校長 田雜 健

平成31年2月1日(金)発行

学校教育目標：ふるさとを愛し、主体的に学習し、自らの判断で正しく行動できる生徒

め ぎ す 生 徒 像 : 素直で心豊かな生徒 ・ 自ら考え、主体的に学ぶ生徒 ・ 強くたくましい生徒

宇久中生徒の5励行 : 心のこもったあいさつをする 授業に集中する 生徒会活動や部活動に励む
大きな声で校歌を歌う 清掃活動に力を入れる

Uku Labo 生徒発表会



28日(月)、宇久高校にてUku Labo 生徒発表会が開催されました。今年度は小学生も参観し、高校に宇久島の小・中・高児童生徒が勢ぞろいした1日になりました。

発表内容については、ここでは取り上げませんが、どの学年の発表も独創的なアイデアとそれを形あるものにするための地道な努力が見て取れるもので、「さすが、先輩」と言いたくなるような内容でした。

発表終了後の講評のなかで、「今回身に付けた探究活動の方法を活用して、自分の夢の実現に向かってほしい」とのお話がありました。中学生の皆さんにとっても同様です。今後、どのような進路を選ぶとしても、学校で学んだ知識のみでなく、何かを実現するための考え方や手立てといったことはとても大切になってきます。ねらいを明らかにし、仮説を立て、失敗を恐れずにチャレンジする。ダメだったら考え直してやりなおしてみる。それが今回、先輩方が示してくれた「探究」ということです。そういった意味でも**学ぶとは自分自身への挑戦**なのです。

1月～3月の指針

将来の自分を見据える ―志を新たに―

○体験授業、入試、卒業式、修了式 など

おいしい学び

22日(火)、1年生向けに郷土料理教室を行いました。宇久地区食生活改善推進委員会の皆さんに講師をお願いして、ご飯、肉豆腐、ほうれんそうとしめじとカブのみそ汁、いももち、というメニューで、大変おいしくできあがったと聞いています。

ご指導いただきました食生活改善推進委員会の
皆様に紙面を借りてお礼を申し上
げます。

1年生の皆さん、今回学んだ料理の腕を家庭でも生かしてください（けがしない程度に）。



まだまだインフルエ ンザに注意

本校では幸いにも流行の兆しはありませんが、
まだまだ市内ではインフルエンザが収まる様子は
ありません。毎回のことですが、

- 1 予防接種を受けているといっても油断しないこと。もちろん、「自分がかからない」と変な自信をもたないこと
 - 2 「うがい、手洗い、マスク着用」を実践すること
 - 3 せきエチケットを守ること
 - 4 「早寝、早起き、朝ご飯」の基
- 
- A cartoon illustration of a woman with short black hair, wearing a pink shirt and a white face mask with blue vertical stripes. She has a neutral expression and is looking directly forward.



本的な生活リズムを守り、体力の維持・向上に努めること

もし「かかったかな？」と思ったら、なるべく早く受診しましょう。無理は禁物です。

子ども県展表彰



25日（金）、大村市で開催された「子ども県展」学校賞表彰式に参加してまいりました。さすがに4分野中3分野の受賞校は珍しく、会場でお目にかかった大会関係者の方々から、「宇久中頑張りましたね」と多数声をかけていただきました。

式前の来賓挨拶の中で、「AI（人工知能）が急速に発達しているが、美しいものを美しいと感じる心、それを表現しようという気持ちはヒト特有のものでAIでは代替できない。」といった話がありました。美術に限らず、音楽にしてもそうです。そういった心、気持ちを大切に、養っていくことも学校の大きな使命であると強く感じた1日でした。

なお、今回多くの生徒が入賞、入選していますが、それらの作品については県内での巡回展示（長崎、佐世保、五島が予定されています）が終了し作品が学校に返却されたところで、ここ宇久町でも展示会を開いて、皆様にもご覧いただければと思っております。その折には改めてご案内いたします。

2月の行事予定

12日（火） 小学生が中学校の授業を参観する日です。その後、保護者の方とともに学校説明会に参加してもらいます。

15日（金） 土日をはさんで、3日間第4回定期テストを行います。

18, 19日 計画的な学習を期待しています。ご家庭でもお声かけいただければ幸いです。なお、テスト前準備として、8日から部活動は休みに入る予定です。



みんなで考える メディア社会

27日（日）、山澄地区公民館にて佐世保市青少年育成連盟と市教育委員会の共催で行われた「青少年育成研修会」に参加しました。

毎年この時期に開かれているこの会は、佐世保市をいくつかの地区に分け、その年の担当地区に属する中学校から代表生徒1名がパネリストとして参加し、会場に居られる大人の方と意見を交換するというものです。



今年度は市北部地区から6名の生徒が参加していました。進行された川上貴子さんは、以前市内中学校のPTA会長をおつとめになり、現在は県メディア安全指導員として活躍されている方で、ご自身の経験を交えながら生徒の発言を巧みに引き出し、協議を充実したものにしてくださいました。

今回の協議のテーマは「メディア社会の現状と方向性 ～みんなで考えるメディア社会～」でした。私は時間の都合で、協議前半の6名の中学生と川上さんとのディスカッションまでうかがったのですが、今の中学生にとって携帯、スマホといった情報通信機器との付き合いは「生活の一部」なのだとすることを改めて痛感しました。極端なことを言えば「生まれたときから在る」ものなのですね。そして、今後濃淡はあっても、付き合いがどうなる



を得ない道具ということになるのでしょうか。そう考えると、やはり「正しい使い方」について、使い手自身が考えていかなくはなりません。その時、どんなアドバイスができるのか、

自問自答した帰り道でした。

25日（金）学校開放日、参観ありがとうございました。